

Doctors network to help Asians

OKAYAMA — A doctors' network will begin to dispatch international teams in May next year to Asian countries in need of medical assistance.

The Association of Medical Doctors for Asia (AMDA), based in Okayama City, was set up in 1984 by Shigeru Suganami, a local hospital director. Some 400 doctors from 13 Asian countries have joined the organization, which operates on membership fees and donations from businesses.

The AMDA has been offering its hand to victims of disasters like the Gulf war and volcanic eruptions in the Philippines as well as creating a medical service system for foreigners in Japan.

The AMDA will form an initial team of doctors from Japan, Nepal and Bangladesh later this month as a test run to offer medical aid to refugees in Bangladesh who are fleeing repression by the Myanmar military.

The AMDA is also establishing bases in the Asian countries for its teams.

Said Suganami, "I hope the AMDA will contribute to international society through medical work."

英文毎日

ミャンマー難民に医療隊

アジア医師連絡協議会 バングラに派遣

3カ国5人

アジア諸国の医師らでつくる「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市、菅波一茂代表)は、ミャンマーから大量の難民が流入しているバングラデシュに、日本の三カ国の医師からなる

国際医療援助隊を派遣する。二十七日に先発隊、四月十日に医療隊が出発する。国際的な医療ボランティア団体としては、フランスに本部を置く「国境なき医師団」などがあるが、同会はアジアの災害や難民救済のための「アジア多国籍医師団」構想を提言してお

り、今回はその初の活動とされている。同会によると、多数の難民が集まっているバングラデシュのチッタゴンに医療キャンプを開き、緊急医療や予防接種、健康教育活動などをするといい。

先発隊がチッタゴンで予備調査したあと、第一次医療隊三人が日本を出発する。先発隊と医療隊には日本人医師二人、日本に留学中のバングラデシュの医師

二人とネパールの医師一人が参加する。アジア医師連絡協議会は一九七九年、タイのカンボジア難民キャンプで一緒に活動した医師らの交流をきっかけに発足した。現在アジア十三カ国に支部があり、会員四百人のうち日本人が二百人。同会副代表の医師小林米幸さん(神奈川県大和市)は「日本人だけの医師団では相手国の習慣などがわからず、ニーズにあつた援助ができなかつた面もある。今回は現地の言葉と日本語がわかる留学生が参加するので充実した活動が期待できる」と話している。

薬の購入費などにあてるための募金も募っている。連絡先は菅波茂代表(〇八六一一八四一七六七)か小林さん(〇四六一一六三一三八〇)。